



第479号 平成30年6月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館 2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 林 鐘 声

第69回指定都市学校保健協議会

会長 林 鐘 声

5月26日（土）の午後に、浜松市医師会主催の学校医研修会がオーケクラクトシティホテルで開催されるため、7人で浜松市へ出向きました。20の政令指定都市の内科・耳鼻科・眼科の約160人の学校医が集まり、科に別れて研修したうち、内科の研修会は食物アレルギーの食べて予防、食べて治療を主旨とするものでした。詳細は別に報告します。

翌日は上記の協議会が浜松市学校保健会、浜松市教育委員会の主催でアクトシティ浜松で開かれ、オープザーバー参加の東京都と各政令指定都市の関係者約500人が出席しました。京都からの参加者は、第1分科会で発表の紫野高校養護教諭の杉本美美子先生を始め学校三師、教育委員会、校長、養護教諭、合わせて24人でした。

全体協議会で次回は来年の5月26日に新潟市での開催が承認された後、北京、リオのパラリンピックに出場したプロアスリートの山本篤氏による特別講演、昼からは各指定都市から1課題、計20課題を4主題に分けた協議会がありました。それぞれ報告を致しますが、以下は私の分担となった第2分科会（保健管理）のことです。

①部活動における自作資料を使ったスポーツ障害予防の取組、②高等学校における眼の疾患、外傷と色覚特性について～色覚特性を中心に～、③子どもたちが安心に過ごせるために～保健指導・健康管理～、④正しい知識を生かして、主体的に判断し、健康的な生活をしようとする子どもの育成を目指して～喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の取組を通して～、⑤熊本地震の中学校における心のケアの実践～保健管理を保健教育に生かすためのマネジメント～、

5課題はいずれも養護教諭による発表でした。学校現場の状況に疎い学校医にとっては、保健管理の取組は多彩で幅広いとともに、その成果が見えにくいことから、20分の報告を聴くのは、いつものことながら、かなり骨折りなものでした。①：部活動の顧問の経験年数は0～5年が最も多く、36%が指導する部活動の競技経験がないとの調査結果から、養護教諭が生徒と顧問教諭に保健指導や情報提供を行う必要が認められ、今後も継続するとしていました。②：養護研究会が中心となって色覚検査の必要性についての冊子を作成したことに伴う生徒や教諭の意識変化を考察したものが、教育委員会や眼科学校医については殆ど言及がない点は、京都市では考えられないことでした。③：多岐に亘る取組を意欲的に入っている中で、単発で終らせず継続することが大事としつつも、それが難しいことも示していたように思います。④：小学5、6年生に対する防止教育の取組では、警察署員による講演は具体性に富んでいて、児童や教諭にとっても効果があったようです。一方、外部講師による講演は児童の自尊心を高めるとの評価は判らないわけではありませんが、早計の感なきにしもあらずでした。⑤：平成28年4月の地震後、人間関係や家庭環境の変化から、落ち着きがない、イライラ感のある生徒が一時的に増えたようです。被災者である教師も同じであり、教師が落ちつくことがまず必要との反省から、生徒と担任が一緒にS Cによる心のケアを受けたのが、効奏したようです。心のケアのマネジメントとして、大いに参考となる対応だと思います。

新任校医挨拶



亀井 滋

(宇多野小学校)

平成30年4月より宇多野小学校の校医をさせていただくこととなりました。約20年病院勤務医の経験しかないと、新たな人生として尽力いたします。未熟ではありますがよろしくお願い申し上げます。



武田 靖

(光徳小学校)

平成30年4月より京都市立光徳小学校の校医をさせて頂くことになりました。京都大学卒業後平成14年から下京で祖父母来の診療所を夫婦で継承開業しております。これまで植柳小・醒泉小の校医を務めさせていただきました。

学校名由来は平安京条坊制光徳坊と記載されておられます、朱雀大路向かいは淳風坊（昨年醒泉小と共に廃校の淳風小は私の出身小）。歴史ある周辺もマンションが並び最近ではホテルや民泊が増え趣も変わりました。少し道を曲がれば懐かしい街並みが残り多くのご縁や思い出がよみがえります。学校で友人達と一緒に診察場に来る時とも異なり生き生きして楽しく見えます。またその笑顔にあえる機会を頂き嬉しく思い、精一杯努めて参る所存です。



中谷 拓也

(大宮小学校)

平成29年10月より京都市立大宮小学校の校医を務めさせて頂いております。平成13年に京都府立医大を卒業後、同大学小児科学教室へ入局、平成26年より北区大宮にて小児科・アレルギー科を開業しております。以前より北区の乳幼児健診、保育園の園医を担当させて頂いておりますが、今回初めて学校医を務める事となり、より深く地域の小児保健に携われる事に喜びと責任を感じております。微力ながら、地域の子ども達の健全な成長に貢献できればと存じます。何とぞご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



本多 宏明

(大宅小学校)

平成30年4月より、山科区の大宅小学校の校医をさせていただきました本多と申します。平成9年に京都府立医科大学を卒業し、整形外科入局、第二日赤や愛生会山科病院を勤務した後、平成28年8月に山科区で本多整形外科を開業させていただきました。当院は大宅小学校のすぐ裏手で敷地も隣接していますので、医院からも児童さんの元気な声が聞こえてきます。

学校医も初めてで、整形外科医が内科検診をする事になり、わからない事ばかりですが、微力ながら地域医療に努めさせていただきたいと思いますので、ご指導の程宜しくお願いいたします。



辻 秀治

(大宅小学校)

平成30年4月より大宅小学校の校医をさせていただくことになりました。平成15年に山科で内科・消化器内科で開業し現在に至ります。小児の診療は勤務医時代の当直中に来院した児童と開業後に近隣の小児科が休診の日に診た児童の風邪の治療ぐらいしか経験がありません。小学校の校医が務まるかどうか不安を感じています。先輩校医の先生方に教わりながら、精一杯児童の健康と成長にお役に立ちたいと考えています。どうかよろしくご指導の程をお願い申し上げます。



西村 幸晴

(室町小学校)

平成30年4月より室町小学校の校医をさせていただくことになりました西村幸晴と申します。祖父、父と、室町小学校の校医をしておりましたので小さな時より室町小学校医と言う職は身近に感じておりましたが、いざ自分がなると言うことで大変緊張しております。先日行われました新任学校医研修会に参加して、林会長のお話しを聞き更に身の引き締まる思いでございます。私の専門は循環器内科・老年病学ですが児童の健康管理のため日々努力して参る所存です。諸先生方、学校関係者の皆様ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

精神保健とともに担う — そのⅡ. 不登校への手立て（4）

顧問 有井 悅子

5. 手立て

(3) 学校で

1) 診療からみる学校の現状

先生方は“学校に来させ、勉強も遅れないように。級友達と様々な体験をさせ、苦しいことをのり越え、達成感を味あわせたい”と、使命感を抱かれています。思いあまって、不登校の子ども達を、意欲が足りないとみなして、叱咤激励したり、何とか来させようと、手立てを講じられます。子どもは心身が“しんどい”と本当にわかってもらはず苦しむ結果、経過を長びかせます。不登校は、子どもの素因と環境因子のかけ算だと考えられます。環境が標準的であっても、集団生活を送るのに、水面下で大変苦労し消耗してしまう素因の子どももいます。不登校生の数が、管理の質を問われる不名誉であると、登校を促す方策は奏効しません。本当に有難いのはクラスの一員として大切に思っていると、子どもに伝える工夫をされた上で、そのしんどさをわからうと想像力を働かせて「無理しないで、ゆっくり」と安心させて下さる先生方です。将来を心配する親の焦りを緩めて“ともに”あろうとして下さる先生方には敬服し、あうんの協働が出来ます。逆に、いじめられた時の先生の対応や、先生方自身の言動で傷を受けた場合は、本当に苦しみも深く経過が長くなります。京都市教育委員会では『登校支援ハンドブック』を作成し、手立てを共有するのに全教員に配布しています。早期介入や、予防にも言及されており、解り易いので、いつか、学校医の研修に活用させていただきたい位です。ただ、目標が“登校支援”よりもしろ、“成長・発達支援”だと有難いです。

2) ススメ方の基本

①子どもの希望・本音に徹底して合わせます

「無理せんときや」と声をかけると、回復に即した手立てがとれます。

不登校の診療を始めた30年以上前は、子ども自身が登校を勿論望んでいますし、親や先生方の期待にも応えようと、少し回復したら、登校を促していました。すると、主治医にまで気を遣った子ども達は早く登校はじめました。けれども、十分回復していないので、しばらくするとまた行けなくなり、自分を責め、自信をなくし、状態が悪化したり長びいたりしました。そうして、子どもが本音を云えるよう「無理せんときや」と繰り返し伝える大切さを学びました。

②スマールステップ方式を適用しない

日常の教育、療育はスマールステップを設定し、達成感を得て、自信を培います。けれども、しんどい時は、次々の設定が、子どもの負荷を増してしまいます。ステップを設定せず、現状維持で、子ども自身にゆっくり任せていると、遺伝子に組み込まれ

ているのか、それまでに培ったのか、生真面目に、自発的に積極的に向上していきます。

③“結果の平等”を心づもりする

どの子にも同じ様にちからを注ぐことが平等と考えられています。けれども、集団生活で、心身の状態、学習、行動等で、困っている子どもに心と労力をたくさんかけ、何とかうまくやれている子どもには、その子のちからを持むと、教室、学校での過ごし易さの“結果の平等”が達成されます。

3) 子どもの居場所

- ・教室：なかなか入りにくいので、焦らせないでいて十分回復すると、長いブランクがあっても入れ、しんどさも寡なく過ごせます。
- ・保健室：教室の緊張から守られ、話したい時に養護教諭に聴いてもらうと多くの子どもが安心します。すぐに体温を測り、熱が無ければ教室に戻るように促したり、週の在室時間を制限するのは“養護”に相応しくありません。
- ・別室（校長室、相談室など）：過ごし方、過ごす時間は、子どもの意見にのみ依拠することにします。学生ボランティアの学びのパートナーも活用。スクールカウンセラーは、子ども、親、先生方を尊重するのが本来の役割です。
- ・教育支援センター『ふれあいの杜』（適応指導教室）
京都市立小・中学校に在籍しながら通級し、学習と活動を行います
- ・フリースクール等民間団体
京都市教育委員会と連携している所もあります。
- ・洛風中学校、洛友中学校
不登校を経験した子どもが転入学できます。

4) 行事

普段休んでいても、子ども自身が希望すれば、望む部分を望む形で参加させます。「休んでいるクセに行事だけ来て」と非難される不安、負い目で無理して準備から出席すると当日までに消耗します。心地よい雰囲気作りをクラスで相談しておくと、当日愉しめ、ともにある喜びと達成感を味あいます。それを契機にその後の出席を期待されるのは当然ですが、子どもを苦しくさせるので、はじめから、登校を促すことを控えます。

・学習発表会・音楽会・運動会—当日、休んでもいい役、種目に限ります。歌や楽器、ダンス、体操はDVDで自宅で練習すると安心して参加できます。

・岬の家、山の家—班や係ともに、希望を先に聴くのがよい準備になります。参加したいけど不安が強い時は、期間中、親がいつでも迎えに行けるよう休む体制を組みます。しんどくなった時、伝えやすい雰囲気作りをし、「帰りたい」と訴えたら、親にすぐ迎えを頼みます。「もう少しだから、こ

れから嬉しい行事が」と留められ、不信感が寡り、不登校を長びかせた例もあります。

・修学旅行、ホームスティー上記と同様に準備します。中学以上は、目的地が遠くなり、子どもも休暇や正規運賃など親の負担を申し訳なくなります。「連絡貰ったら、いそいそ出掛けるから、なかなか行けないところの旅を愉しもう」と親が伝えると、安心して参加します。海外へは、パスポートを取得して示し、多めの資金を調達するなど、本気度が伝わると安心し、迎えが要った例は有りませんでした。

5) 学習の遅れ

しんどい時はわかっていても勉強が全く手につきません。遊び呆けているようにみえる子どもを促すと暴言・暴力に至るのも少なくありません。学校のプリントは早すぎると負担になります。けれども、任せて、十分遊んで回復すると、殆どの場合、自習、ネット学習、通信添削、塾、個別指導、家庭教師など自ら始めます。先生が、放課後、学校や家庭で教えると、大変助かります。けれども、期待に応えて無理してがんばって、長引くこともありますし、何より多忙な先生方の大きな負担も気懸りです。素因として、特異的学習症（学習障害）が有り、特別支援員や放課後ディサービスなどの個別指導が有効な場合も少なくありません。学習が遅れると不登校を長びかせるのではと危惧されますが、回復すると、遅っていても登校し、学習の動機が増します。

6) 進路

不登校の時は、成績のみならず、特に心身の具合を考えあわせて、志望校を決めます。中学3年では、

受験勉強のヤマである夏休みを有効に活用するようなどで、7月の三者面談までに決めるよう促されます。しんどい時は、高校に行きたいのかどうかも含め、自分でもどうしたいのかわかりません。時間がかかるても、ラクになってくると、自然と希望がはっきりしてくるので焦らせないのが得策です。子ども自身の気持が向けば、オープンキャンパスなどで、その場に身を置き、“合う”“居場所だ”と感じる学校は、進学後、しんどくとも通い続けられます。

内申書を理由に、登校、課題提出、定期試験を受けることなどが強く勧められます。確かに以前に比し、内申点が重視されるようになっています。それでも、行きたい高校が出てくると、目をみはる程、馬力を上げて、内申点が十分ではないのに、合格していく子どもに教えられます。

不登校になる子どもは、豊かなちからを秘め、不登校の間に、ちからをつけていきます。大学、専門学校、訓練校でちからを発揮して、好きなことを極め、卒業後の社会人としての長い人生を、自信を持って、愉しくすごせるよう期待します。そこに到るには、高校を卒業するか卒業認定が必要です。単位制、通信制の他、一般の高校でも柔軟なコースが出来てきたのは大きな救いです。

6月30日には“不登校”的研修会が開催されます。連載をたたき台として、活発にご議論下さい。

訂正

前号（第477号）の“夜篠”は“夜驚”的校正ミスでした。

第2回 常任理事会

平成30年6月2日 於：事務局

出席者 林会長、井本・杉本副会長、山内専務理事、安野・川勝・西村・中嶋各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 西京支部会 5/12 於：キャレドミュー
参加者18名
2. 平成30年度京都市学校保健会第1回常務委員会
5/15 於：京都市総合教育センター
3. 京都市中学校春季総合体育大会
ラグビーフットボール種目 5/20
於：京都市宝ヶ池球技場 生田篤也先生
4. 第69回指定都市学校保健協議会・学校医研修会
5/26～5/27 於：静岡県浜松市
5. その他

<協議事項>

1. 肥満とやせのマニュアルについて 西村先生
改訂原案 9/2までに

2. 文部科学大臣表彰推薦について
3. 第40回近畿学校保健連絡協議会について
7/26 於：和歌山県民文化会館 参加者なし
4. 京都市学校保健会新旧会長歓送迎会出席者について
出席者 林会長、井本・杉本副会長
5. 平成30年度懇談会協議内容について
市教委との懇談会：就学時健診の日程について、
学校保健委員会の校医の出席、
食物アレルギー、運動器健診等
6. その他

<関連学会・各種協議>

1. 第35回京都府歯科保健文化賞 6/3
於：京都市勧業館みやこめっせ
2. 色覚相談 6/5
3. 三師会 6/9 18:00～ 於：膳處漢ぼっちり
4. 京都市学校保健会 新旧会長歓送迎会 6/12
於：リーガロイヤルホテル京都
5. 精神衛生研究会 6/14
6. 中京西支部会 6/16 天ぷら 吉川
7. 京都市学校医会研修会 6/30 14:00～
於：こどもみらい館
8. 京都市教育委員会との懇談会 6/30 於：祇園豆寅
9. 第3回常任理事会 7/7
10. その他